

宮本整形外科病院

石岡 達司



はじめに

宮本整形外科病院は岡山市中区にある。中区は旭川の東にあり操山山系を取り囲むように位置する。中区の面積は岡山市の6.5%で人口は20%を有し、医療界の転換期といわれる2025年までは増加傾向にある。農業従事者は7.8%と岡山市の他の区と比較して少ない。当院は中区の西側で、後楽園の1km東、岡山県立朝日高校と岡山県立操山高校の中央に位置する。

二次医療圏で見ると当院は岡山県南東部に属す。当然、岡山大学病院、川崎医科大学附属病院の2大学病院を始め、DPCの医療機関群2に認定された岡山医療センター、また、全国的に著名な岡山済生会総合病院、岡山赤十字病院、岡山労災病院、岡山市立岡山市民病院などの大病院がある。平成21年地域保険医療基礎統計（厚生労働省）における二次医療圏別に見た人口10万対病床数では岡山南東部医療圏は10万人当たり1,124床と全国約350二次医療圏の15

位にランクされる病床高密度にある。言い換えれば病床過剰地域である。当然、当院の当地区における役割あるいは将来における役割は、自ずと見えてくる。ここでは、病院の沿革、現況、理念、展望を通じて当院を紹介したい。

病院の沿革

宮本整形外科病院は宮本政義（岡山医大昭和26年卒、平成20年逝去）が昭和37年に岡山駅前桃太郎通りに面した中鉄ビル2階に整形外科単科の整形外科医院を開設したのを起源としている。この当時、私立の整形外科医療機関は唯一であった。その後、昭和39年に国富（現在地の200mほど南）に病院を新設、昭和42年に錦町（岡山高島屋デパートの東）に診療所を中鉄ビル2階から移転した。昭和55年には高齢化社会に対応するため社会福祉法人を設立し、以降特別養護老人ホーム、介護老人保

健施設、認知症専門介護老人保健施設、ケアハウス、グループホームなどを開設して、介護全般に対応可能な体制と成っている。平成8年には昭和39年に建設した病院の老朽化に伴って現在地に新築移転した。診療内容も患者様の高齢化、複雑化に対応するため内科を新設して現在では整形外科、内科、放射線科、リハビリテーション科を標榜している。

現況

当院が立地している地域は前述のごとく地方都市の医療過密地区である。それゆえ、当院の歩むべき方向は自然に決定される。病病連携、病診連携を介して当地区での post-acute 或いは sub-acute を担うことが地域に対する使命である。

一方、地域に住まわれている患者様を中心に大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患や糖尿病、肺炎などの内科疾患に対して診療を行うことも当院に課せられた使命である。そのため、無菌ルームを含めた手術室、MRI（0.5テスラ）、CT スキャン（4列）、関節鏡、上下部消化管電子内視鏡、超音波検査装置、骨密度測定装置（DEXA）などを整備している。当然、診療体制は一般病床60床（亜急性期病床20床）、医療型療養病床50床



関連施設：社会福祉法人 恵風会（岡山市中区今谷）

のケアミックス型病院（110床）である。

一般病棟は3階に看護体制10：1の下、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、急性肺炎、腎盂腎炎を中心に治療している。これら多くの患者様は高齢者でしかもリハビリを必要とするため20床ある亜急性期病床を利用する頻度が高い。結果、DPCに参加することは困難である。

医療型療養病棟は2階に看護師20：1の下、重症パーキンソン病などの神経難病等を含め原則としてADLが3以上の患者様の治療を行っている。その中で酸素吸入や高カロリー輸液が必要な患者様は約40%を占め、重症な慢性疾患を治療する傾向にある。この背景には、特殊疾患療養病棟から発展解消して医療型療養病棟に移行したことが影響していると思われる。

病院の理念と展望

宮本整形外科病院の理念は、「患者様が安心して医療を受けることができる優しい病院をめざす」である。何度と述べることになるが、当院の置かれた地政上の問題、医療制度と着実に進展している高齢化問題を鑑みれば、当院の進むべき方向に協道はない。即ち、当院が直面している現実を真摯に捉え、身の丈にあった医療を持って地域に貢献したいと考えている。ここに現時点における基本方針を示す。

- ① 身の丈にあったpost-acute, sub-acute医療を中心に地域の医療機関と緊密な連携を取り速やかに・安全・確実に行う。
- ② 身の丈にあった地域の医療・介護・社会活動を関連施設である社会福祉法人恵風会と協調して行う。

昨今の世界は政治、経済などにおいて未曾有の混乱の中にある。私たちが立っている医療、介護の世界も大変革なくして存在し得ないであろう。この混沌とした時代を生き抜くためには、私を含めた職員一人一人が自己を磨き能力を高める以外にない。この方向性に立って如何に当院をハード、ソフトの両面において変革できるかが現在の病院に課せられた課題である。激動の医療界を生き抜くことは陰しく困難かもしれないが職員一同全力で課題解決に努力すれば明るい未来が開けるものと信じている。

最後に、当院の理念を着実に遂行する為に今後とも関係各位のご指導、ご鞭撻をお願いします。

平成24年7月受理
〒703-8236 岡山市中区国富4-2-63
電話：086-272-1211 FAX：086-271-5554
E-mail：ishioaka@miyamoto.or.jp
<http://www.miyamoto.or.jp/>